

Ⅱ．調査結果の総括

1 回答者について

1. 回答者について

ポイント

- 回答者の分布は、年齢では40歳代、50歳代、75歳以上、圏域では本庁圏域がそれぞれ多くなっているものの、幅広い年齢、居住地からの回答があった。
- 福祉との関わりがある人は約6人に1人である。

回答者の年齢分布について、40歳代、50歳代、75歳以上が多くなっていますが、10代から75歳以上まで幅広く回答がありました。また、居住している日常生活圏域では、本庁圏域が多くなっていますが、いずれの日常生活圏域においても一定の回答がありました。

福祉との関わりについて、仕事やボランティア活動、福祉サービスを利用している人等、日頃から福祉との関わりがある人は全体の約6人に1人となっています。

2 地域生活に関することについて

1. 近所づきあいについて

ポイント

- 若い年代で近所づきあいが希薄になっている。
- 年代ごとに望む近所づきあいの程度が異なっていることがうかがえる。
- 額田圏域で近所づきあいが密であり、満足度も高い。

近所づきあいの程度について、年齢が上がるにつれて日頃から助け合っている人の割合が高くなる傾向がみられます。一方、40歳未満では、「ほとんどつきあいがいい」と回答した人の割合が2割前後と他の年代と比較して高くなっており、若い年代で近所づきあいが希薄であることがうかがえます。

近所づきあいの満足度について、いずれの年代においても約75%以上の人が『満足している』と回答しています。特に、20歳未満では『満足している』が9割以上となっており、密な近所づきあいを希望していないことがうかがえます。

圏域別の状況をみると、額田圏域においては、近所づきあいの程度について、「日頃から助け合っている」が35.3%と他の圏域と比較して高くなっています。また、近所づきあいの満足度について、『満足していない』が10.3%と他の圏域と比較して低くなっています。近所づきあいが密であることが、近所づきあいの満足度の高さにつながっていることがうかがえます。

2. 近所での助け合いについて

ポイント

- 困りごとは減少している一方、相談する意向があるものの相談していない人が一定数みられる。
- 年代別では、20 歳代や 30 歳代、圏域別では、六ツ美圏域で近所の助け合いが少ない。

日常生活における困りごとについて、平成 27 年度調査と比較すると、いずれの困りごととも減少しています。困りごとの相談先について、「家族・親族」は約 8 割、「友人・知人」は約 4 割の回答があったものの、「民生委員児童委員」「町内会役員」「行政（市役所など）」「学校や保育園、幼稚園」「学区福祉委員会」等の地域組織や公的機関を挙げる回答はいずれも 1 割以下となっています。また、「相談していない」が 7.0%となっており、平成 27 年度調査と比較すると、ほぼ横ばいとなっています。相談していない理由としては、「信頼できる人・相談できる人がいない」が約 3 割と最も高くなっており、平成 27 年度調査と比較すると 10 ポイント以上増加しています。また、「なんとなく相談しづらい」「どこに（誰に）相談したらよいのかわからない」という回答もいずれも 2 割以上みられ、平成 27 年度調査と比較すると 10 ポイント以上増加しています。困りごとを相談したいという意向はあるものの、相談できる人がいないことや相談先がわからないこと、相談しづらいことが理由で相談できていない人が一定数みられます。

近所でのお手伝いの有無について、お手伝いをしたことがある人が 19.3%となっており、平成 27 年度調査と比較すると、6.1 ポイント減少していますが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が反映されている可能性があります。年代別では、20 歳代や 30 歳代で、圏域別では、六ツ美圏域でお手伝いをしたことがある人の割合が 13.2%となっており、近所での助け合いが少ない状況であることがうかがえます。

3. 地域活動について

ポイント

- 地域内の行事や町内会活動に参加・協力している人は約半数。
- 年代別では、40 歳未満、圏域別では、本庁圏域や岡崎圏域、矢作圏域で地域内の行事や町内会活動に参加・協力している人が少ない。
- 地域活動に参加・協力していない理由として、興味・関心がないことや 60 歳未満では多忙であることが多く挙げられている。

地域内の行事や町内会活動への参加・協力の状況について、『参加・協力している』が 5 割となっています。性別では、女性と比較して、男性で『参加・協力している』が 5.5 ポイント高くなっています。年代別では、40 歳未満で、圏域別では、本庁圏域や岡崎圏域、矢作圏域で『参加・協力している』が 5 割未満と他の年代、圏域と比較して低くなっています。

地域活動に参加・協力していない理由としては、「興味・関心がない」が約 3 割と最も高くなっており、平成 27 年度調査と比較すると 13.3 ポイント増加しています。年代別の状況を見ると、60 歳未満で「忙しくて時間がない」が 3 割前後みられます。

3 福祉への関心、意識について

1. 福祉への関心、意識について

ポイント

- 50 歳未満で福祉に関心がない人が多い。
- 周囲からの支援が必要な家庭があると感じている人が約4割みられる。
- コミュニケーションによる支援であればできると回答している人が多い。

福祉への関心の有無について、『関心がある』が52.5%となっています。年代別の状況を見ると、20 歳未満、30 歳代、40 歳代で『関心がある』が他の年代と比較して低くなっています。圏域別の状況を見ると、本庁圏域、矢作圏域、額田圏域で『関心がある』が6割前後と他の年代と比較して高くなっています。

周囲の人の手助けや協力・支援が必要だと思われる家庭について、「特にない」が54.4%となっており、周囲からの支援が必要な家庭があると感じている人が約4割あることがうかがえます。そのような家庭に対する支援について、「支援したいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」が30.9%、「近所に住むものとして、できる範囲で支援したい」が19.3%、「支援したいが何をすればよいかわからない」が13.6%となっており、6割以上の人が支援する意向があることがうかがえます。

ちょっとしたお手伝いについて、「安否確認の声かけ」が約4割、「話し相手」が約3割となっており、コミュニケーションによる支援であればできると回答している人が多くなっています。

4 地域福祉に関することについて

1. 地域福祉施策について

ポイント

- 岡崎市地域福祉計画、C S W（コミュニティソーシャルワーカー）の認知度が低い。
- 移動手段の確保、地域福祉を支える人材の育成、権利擁護の推進と見守り体制の充実、バリアフリー・ユニバーサルデザインによるまちづくりが優先して充実が求められている。
- 地域の助け合いや福祉活動を推進するため、相談機能の充実や情報発信が求められている。

岡崎市地域福祉計画の認知度について、『知っている』は 7.0%に留まっています。また、C S W（コミュニティソーシャルワーカー）の認知度について、『知っている』は 8.8%となっています。圏域別の状況をみると、額田圏域で『知っている』が 16.2%と他の圏域と比較して高くなっています。

岡崎市の地域福祉に関する取組のうち、重要度が高いにもかかわらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目は、「移動手段の確保」「地域福祉を支える人材の育成」「権利擁護の推進と見守り体制の充実」「バリアフリー・ユニバーサルデザインによるまちづくり」が挙げられています。特に、「移動手段の確保」は平成 27 年度調査と比較すると、地域福祉に関する取組の中で唯一満足度が下がっています。

地域の助け合いや福祉活動を進めるために必要なことについて、「保健、医療、福祉それぞれの相談機能の充実を図る」が 38.7%、「福祉に関する情報や活動内容などをもっと P R する」が 35.9%となっており、相談機能の充実や情報発信が求められています。

2. 福祉に関する情報について

ポイント

- 情報の入手先について、全世代では「市政だよりおかざき」が最も高いが、40歳未満でインターネットが高くなっている。
- 自分にとって必要な福祉サービスに関する情報を入手できていない人が過半数を占めている。
- 年代ごとに福祉サービスに関する情報のニーズが異なっている。

情報の入手先について、「市の広報紙「市政だよりおかざき」」が74.3%、「町内会の回覧板」が38.6%となっています。年代別の状況をみると、40歳未満で「インターネット」がいずれも3割以上と他の年代と比較して高くなっています。

自分にとって必要な福祉サービスに関する情報の入手状況について、『できている』が13.6%に留まっており、『できていない』が過半数を占めています。年代別の状況をみると、年齢が上がるにつれて情報を入手できている人の割合が高くなる傾向がみられます。

福祉に関する情報のニーズについて、「各種福祉サービスの種類、内容」が60.0%、「各種福祉サービスの利用に係る費用」が42.0%、「各種福祉サービスの利用手続き」が38.8%となっており、福祉サービスの利用時に必要となる情報のニーズが高くなっています。年代別の状況をみると、30歳未満で「福祉ボランティアに関する情報」、50歳未満で「保育や子育てに関する情報」、40歳以上で「各種福祉サービスの相談窓口」「介護保険に関する情報」がそれぞれ他の年代と比較して高くなっており、年代ごとに福祉サービスに関する情報のニーズが異なっていることがうかがえます。

5 災害時の支援について

1. 災害時の支援について

ポイント

- 災害時避難行動要支援者支援制度の認知度が低い。
- 日頃からの近所づきあいにより、災害時に支援することができる関係づくりを進める必要があると考えている人が多い。

災害時避難行動要支援者支援制度の認知度について、「知っている」は17.4%に留まっています。年代別の状況をみると、50歳未満で「知っている」が1割前後と他の年代と比較して低くなっています。

避難行動要支援者について、「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」が6割近くとなっており、日頃からの近所づきあいにより、災害時に支援することができる関係づくりを進める必要があると考える人が多いことがうかがえます。

6 社会福祉協議会について

1. 社会福祉協議会について

ポイント

- 60歳未満で社会福祉協議会の認知度が低い。
- 社会福祉協議会には、居宅サービスの提供や福祉に関する相談窓口の機能強化、地域福祉活動を推進するための支援が求められている。

岡崎市社会福祉協議会の認知度について、「知っている」は16.5%に留まっています。年代別の状況をみると、60歳未満で「知っている」が約15%以下と他の年代と比較して低くなっています。

社会福祉協議会に期待することについて、「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が45.8%、「福祉に関する総合相談窓口」が32.7%、「住民が共に支えあう仕組みづくりの支援」が30.8%となっており、居宅サービスの提供や福祉に関する相談窓口の機能強化、地域福祉活動を推進するための支援が求められています。

7 近年の福祉課題について

1. ひきこもりの方や生活困窮者に対する支援について

ポイント

- ひきこもりの方や生活困窮者に対する支援として、相談支援や就労支援が求められている。
- 生活困窮者自立支援制度の認知度が5%以下である。

ひきこもりの方を支援するための重要な施策について、「相談（面談や電話等を含む）」が44.3%、「友達のような話し相手」が35.0%、「就労支援」が34.1%となっています。また、生活困窮者を支援するための重要な施策については、「自立に向けた相談支援」が57.8%、「就労に向けた訓練・支援」が53.4%となっています。ひきこもりの方や生活困窮者に対し、相談支援や就労に向けた支援が必要と考える人が多くなっています。

生活困窮者自立支援制度の認知度について、「どのような制度か知っている」は4.6%に留まっています。

2. 支援を必要とする人の権利擁護について

ポイント

- 若い年代や後期高齢者で成年後見制度の認知度が低い。
- 成年後見支援センターの認知度が低い。

成年後見制度の認知度について、「どのような制度か知っている」は20.5%となっています。年代別の状況をみると、30歳未満や40歳代、75歳以上で「どのような制度か知っている」は15%前後となっており、他の年代と比較して低くなっています。

成年後見支援センターの認知度について、「知らない」が73.4%となっています。

8 地域福祉全般について

1. 地域福祉全般について

ポイント

- 若い年代を中心に学区福祉委員会の認知度が低い。
- 日頃からの住民同士のつきあいにより、住民同士が助け合い、支え合える地域づくりを進める必要があると考えている人が多い。
- 市には、住民同士が交流する機会の提供や情報提供・発信の充実、支援を必要とする人への訪問、福祉に関する相談窓口の機能強化が求められている。
- 8割弱の人が今の生活に満足している。

学区福祉委員会の認知度について、『知っている』は13.4%となっています。年代別の状況を見ると、年齢が上がるにつれて『知っている』が高くなる傾向がみられます。また、圏域別の状況を見ると、額田圏域で『知っている』が30.9%と他の圏域と比較して高くなっています。

地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために地域として取り組む必要があることについて、「隣近所の住民同士の普段からのつきあい」が約5割となっています。日頃からの住民同士のつきあいにより、住民同士が助け合い、支え合える地域づくりを進める必要があると考える人が多いことがうかがえます。また、市として支援を行う必要があることについて、「地域の人々が交流する機会を設ける」「情報提供・情報発信を充実させる」「孤立している障がい者・介護を要する高齢者を時々訪問して、声をかける」「福祉に関する総合相談窓口を設ける」がいずれも3割前後となっています。住民同士が交流する機会の提供や情報提供・発信の充実、支援を必要とする人への訪問、福祉に関する相談窓口の機能強化が求められています。

今の生活への満足度について、『満足している』が8割弱となっています。年代別では、20歳未満で、圏域別では、六ツ美圏域で『満足している』が他の年代、圏域と比較して高くなっています。